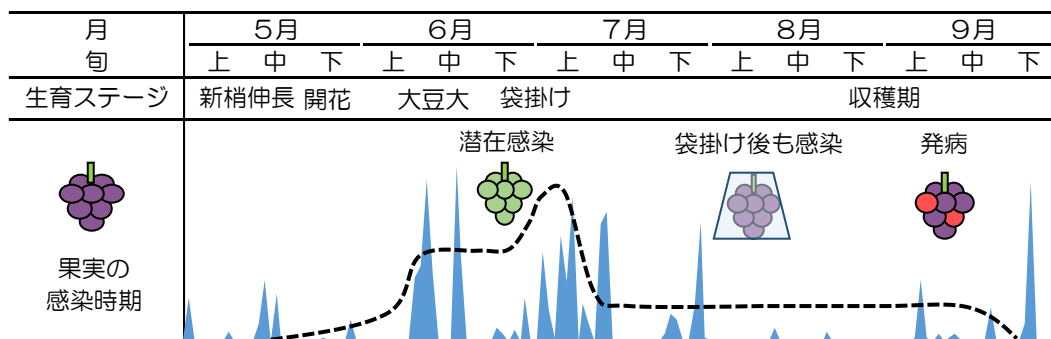


ブドウの晩腐病を効率よく防ぐ 方法を開発しました



晩腐病が発生した
ブドウの果実



ブドウ晩腐病の感染時期の概略図

注) 図中の --- は感染量の推移を示し、山が高いほど感染量が高いことを示す。
積み上げ面グラフは2020年の降水量 (mm/日) を示し、山が高いほど降水量が多いことを示す。

開発のねらい

簡易被覆（棚に簡単なビニルトンネルをかける）栽培のブドウでは、晩腐病の発生が出荷量が少なくなる原因の一つとなっています。そこで、晩腐病の発生の仕方や農薬散布の方法などを調査し、晩腐病を効果的に防ぐ方法を開発しました。

新技術の概要

- 晩腐病が発生した畑では、枝や巻つるに菌が潜んで冬を越し、次の年にまた発生させる原因になります。
- 晩腐病は、主に5月下旬～7月上旬に果実に感染し、特に6月中旬～7月上旬に多く感染することがわかりました。
- 晩腐病の発生を防ぐには、6月中旬（ブドウの果粒の大きさが大豆大の頃）に殺菌剤の「セイビアーフロアブル20」を散布するのが効果的であることがわかりました。

活用場面

本技術は岡山県内の簡易被覆栽培のブドウに適用できます。

果実の商品化率が高まることで、ブドウの出荷量が増加し、農家所得の向上が期待できます。